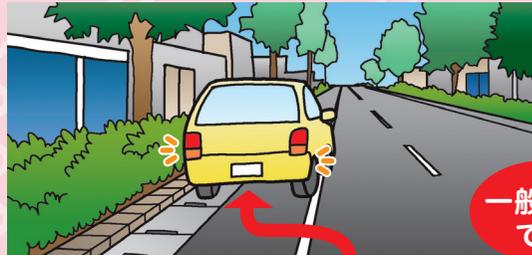




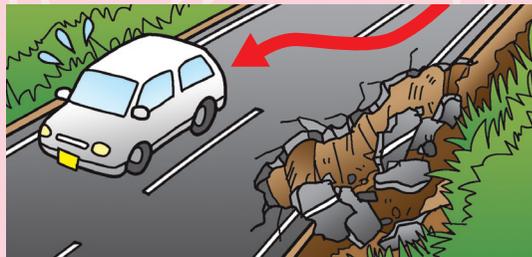
高速道路では

- 急ブレーキ、急ハンドルは避け、ハザードランプを点けて、道の左側に停車します。
- もし走行可能な場合は、安全な速度で走行します。
- サービスエリアや本線約1km毎に設置された非常電話から道路管制センターに連絡することができます。
- 非常口から徒歩で地上に脱出することができます。



一般道路では

- ハザードランプを点けて、道の左側に停車します。
- 停車後は、カーラジオ等により地震情報や交通情報を聴き、その情報や周囲の状況に応じて行動します。



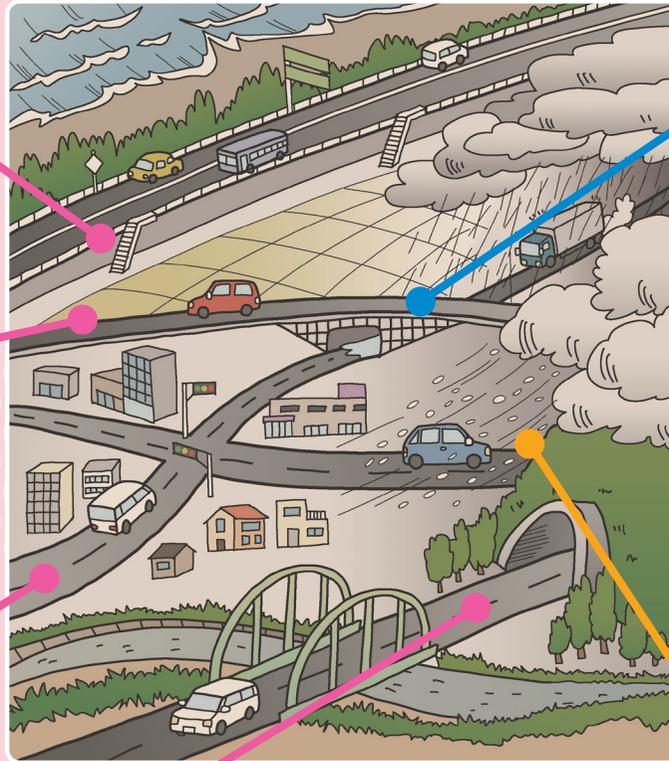
- 引き続きクルマを運転するときは、道路の破損、信号機の停止、障害物等に注意しながら走行します。



トンネルの中 橋の上では

- 低速でトンネル・橋から抜けます。
- 出口まで遠い、岸まで渡り切れない場合は、ハザードランプを点け、クルマを左側に寄せ、窓を閉め、エンジンを停止します。

もし運転中に地震が発生したら



災害の記憶や教訓を風化させず、未来へつなごう

避難時の注意点

- 窓は閉める
- エンジンは止める
- キーはつけたまま
- ドアはロックしない



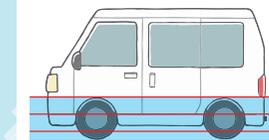
- エンジンキーを付けたまま（キーレスエントリーキーを運転席に残して）、ドアはロックせず、近くの非常口から脱出、または近い岸へ移動します。

もし運転中に大雨になったら



- 線路や道路の下を通る「アンダーパス」は、周辺より低いいため短時間で一気に水が溜まり、侵入すると身動きがとれず危険です。
- 道路が冠水したときは、安易に侵入せず迂回します。
- 川沿いや田んぼ沿いの道は、誤って転落の危険があり注意します。

冠水道路の水深に注意



- 50cm (タイヤの高さ)
車体が浮き流される
- 30cm (マフラーの高さ)
エンジンが停止
- 10cm
ブレーキが効きにくい

もし運転中に大雪になったら



- 猛吹雪や地吹雪で視界が奪われる「ホワイトアウト」は、1m先も見えなくなり、前後・左右・上下の感覚が失われてしまいます。
- ハザードランプやヘッドライトを点け、周囲にクルマの存在を知らせながら減速するか、後方の安全を確認し、クルマを道路の端に寄せて、天候が落ち着くまで暫く待機します。